

平成 25 年度

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興事業

「誤解しない・されない対人関係支援事業」

活動報告書

平成 26 年 3 月

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会

1. 事業の背景、目的

アスペ・エルデの会では思春期以降の会員が 100 名以上所属している。

その 8~9 割が男性である。日々一緒に活動していると、女性スタッフにばかり話しかけたり、話す時も距離が近すぎたり、当会のディレクターと呼ばれる専門家や学生のボランティアスタッフのメールアドレスも知っているのも、深夜でも友達のような文体で何度もメールを送ってしまうということもある。

異性への関心は成長に合わせて芽生えてくることはごく当たり前のことであるが、成長に合わせて、社会から求められる見えないルールなども増えていくということを学ぶ必要がある。それは異性に対してだけではなく、「大人」として、同性に対しても必要なことである。

青年・成人期の発達障害者の社会問題として、就職や就労維持の困難さがある。その背景として、学齢期にいじめや孤立などから引きこもりにつながることも少なくない。

発達障害の人の場合、対人関係は社会性の困難さが特性としてあり、集団場面でも不適応な行動によってトラブルになることもある。そのため他者とのかかわりについては自己肯定感も持つことが難しく、活動へのモチベーションが上がらず社会参加につながらない。

当会では性教育の一環として、思春期を対象にした大人としての適応的な行動のとり方を学ぶ機会をこれまで設けてきた。性教育というのと体の成長に関する内容もあることから、男女別で実施することが多い。しかし、社会性として、年齢に応じた適応的な行動をとるには、社会の中で同性、異性、年齢差などを踏まえた上での良好な関係性を築けることも重要である。

発達障害の青年、成人期の人たちと関わる中で、同じ状況でも男性、女性で捉え方が異なることには気づいていないことが課題として考えられる。社会の中では男性も女性も同じコミュニティにいるため、自分では相手のことを考えて取った行動も、相手にとっては望んでいない行動になってしまうことがある。そのことが結果として孤立や引きこもりにつながったり、さらには家庭内暴力や触法行為至ったりすることもある。

本事業では、テーマにもあるように、自分自身が誤解しないように、また周囲に誤解されないような適応的な行動について、男性、女性が一緒に学ぶことで、自分と他者の関係性や適応的な行動とはどのようなものかの理解を広げるためにワークブックを作成することとワークブックを活用するためのワークショップをすることを目的とした。ワークショップの実施については連携団体にも協力を得ながら行った。

以下に活用内容について紹介する。

2. 事業内容、事業実績

(1) ワークブック作成

6月	ワークブック作成の打合せ コンテンツの整理
7月	ワークブック作成の打合せ 文章やイラストの検討
9月	ワークブック作成の打合せ 文章やイラストの検討
11月	ワークブック作成の打合せ 完成に向けた最終的な検討
12月	ワークブック作成の打合せ 完成に向けた最終的な検討 校正 印刷

(2) ワークブックの内容について紹介する。

ワークブックの紹介

すてきな大人になるための
「コツ」や「ルール」がざっしり！
学校や職場などの人間関係も
わかりやすく説明してくれる一冊です。

この「すてきな大人計画」は、
あくまで計画です。
現実の社会や人間関係は複雑で
ワークをしたからといって、
すぐにうまくできるようになる
わけではありません。
知識として「知っていること」と、
「できること」は違うからです。

ワークブックに書いてあるから
「やらなければならない」と即実行する前に
ちよっただけ考えてみましょう。
「あれ？ うまくいかないなあ」と思った時、
自分自身の行動を振り返ったり、
誰かに相談したことはありますか？

うまくいかない時は、まずは
自分の行動をチェックするところから
始めてみるとよいかも知れません。
チェックポイントが分からない時など、
このワークブックを参考してみてください。

あわてないで、じっくり大人になりましょう！

発行日：2013年12月27日
発行元：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会
連絡先：特定非営利活動法人アスベ・エルデの会 事務局
〒462-0821 名古屋市南区上小畑2丁目187番地 メゾンドクター小畑201号室
電 話：157-5256（夜間緊急対応専用）特定非営利活動法人アスベ・エルデの会 総務ディレクター）
株 主：川上ちひろ（特定非営利活動法人アスベ・エルデの会 ディレクター（岐阜大学医学部附属研究センター）
田中朝樹（特定非営利活動法人アスベ・エルデの会 事務局長）
協 力：独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
この冊子は「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」の助成金を活用して作成いたしました。
刷 刷：アド・スタジオ ウェーブ

※本誌文書および画像の無断転載・転用を禁じます。

<ワークブックのページごとの説明・意図>

P3 大人バージョンを目指すために（説明）

「大人になるということ」について説明しました。

一般的には身体的・精神的な成長（発達・発育）についていわれることが多いと思います。社会的な役割や責任については、成長する過程での経験に伴って身に付いていく（身につけていく）ものだという期待があります。その期待は、大人としての場面にあった適切なふるまいをすること、などを言います。しかし ASD の特徴がある皆さんにとっては、周りが期待している大人としての適切なふるまいについて読みとることについて苦手な面があります。どちらかという幼い頃までのふるまいかたを続けてしまっ、大人として適切ではないと判断されることが少なくありません。ですので、大人になる（見た目や年齢）につれて周囲からの大人としての期待が高まるということ、目で見えてわかるような説明となるよう、図で示しました。

P4 大人にふさわしい行動について考えてみましょう（ワーク）

実際におこりそうな場面を想定して、大人としての適切なふるまいについて考えるワークです。

P5-6 人と人との関係について考えましょう（説明・ワーク）

人と人との関係は、自分自身が感じる（考える）実際には目に見えないものです。関係が近いとか遠いなどということがありますが、その見えない（言語化されない）ものを ASD の特徴があるみなさんは読み取ることが苦手なことが多いようです。ですので、この人間関係の距離について図示しました。これは一般的なものですので、ワークとして自分の周囲の人を想定しながら図に書き込みます。

P7 人間関係はいろいろ 異性編（説明）

P5-6 で考えた人間関係についてさらに深く考えます。成人期になると重要になってくる異性との関係についてです。異性に好意を持つということは自然なことですが、その関係と持ち方にはルールがあります。しかしそのルールはやはり言語化されないことが多いので、わかりにくい面があります。異性との関わり方は度をすぎると相手に嫌な思いを与えてしまうことはもちろん犯罪となることもあるかもしれません。ですので、異性との関わり方（とくに好意を持つ相手）について説明しました。

P8 よくある勘違い：異性編（ワーク）

実際におこりそうな場面を想定して、Q&Aにして一緒に考えられるようにしました。

P9 人間関係はいろいろ 社会生活編（説明）

P5-6 で考えた人間関係についてさらに深く考えます。成人期になり社会に出ると重要になる社会での人との関係についてです。どのように人と関わるとスムーズに関係が作れるのか、その一つの例として「ホンネ」と「タテマエ」を挙げて説明しました。

P10 よくある勘違い：社会生活編（ワーク）

実際におこりそうな場面を想定して、Q&Aにして一緒に考えられるようにしました

P12 人間関係はいろいろ 職場編（説明）

P5-6 で考えた人間関係についてさらに深く考えます。成人期になり社会人として就職し社会に出ると、職場での人間関係がとても重要になります。一つに会社で同僚と一言でいっても、さまざま立場あります。その立場によって関わり方を変える必要があります。まずはその職場での役割について理解できるように図で示しました。

P12 よくある勘違い：社会生活編（ワーク）

実際におこりそうな場面を想定して、Q&Aにして一緒に考えられるようにしました

P13-14 身だしなみって何？男性編（ワーク）

おとなになって今さら身だしなみの話？、かと思われるかもしれませんが、身だしなみの清潔さ、場面にふさわしい服装について考える機会を持つページです。ASD の特徴のある人で、おとなになっても母親が準備した洋服を着ている、などの人も見られます。また身体の清潔の面でも、頭や身体がきれいに洗えていなかったり、数日同じ下着や服装を着用している人も見られます。このような時に本人に直接直すように話や注意をしても、なかなか今までの生活習慣を変えることが難しいものです。ですので、グループワークなどでワークをしながら、周りの参加者と話をするなかで、気がついてもらうようにしました。

P15-16 身だしなみって何？女性編①（ワーク）

P13-14 身だしなみって何？男性編と同じように、女性にとっても身だしなみは

重要なものです。対人関係を築くうえでも、身だしなみは大切なポイントになります。

P17-18 身だしなみって何？女性編②（ワーク）

女性の場合、メイクや持ち物（鞆や靴）に関しても自分を表現する重要なアイテムです。適切な場面で適切なメイクや持ち物にすることが大切ですので、これらを客観的な視点から考える事ができるようにワークを作成しました。

P19-20 あなたの「こころ」と「からだ」の特徴を知ろう男性編（ワーク）

自分の「こころ」と「からだ」の特徴を知るため—のワークです。ASDのある皆さんは、自分の「こころ」と「からだ」の特徴をよく知らなかったり、また「こころ」と「からだ」が繋がっていることに気がつきにくい人が多いようです。このような「こころ」と「からだ」の変化に気がつかないと、調子がよくない時になぜ自分がイライラするのか・・・不安定なのか・・・ということの理由を見つけることが難しくなります。ですから、「こころ」と「からだ」の特徴を知るためにワークを作成しました。

P21-22 あなたの「こころ」と「からだ」の特徴を知ろう女性編（ワーク）

「こころ」と「からだ」が調整できることは、女性にとってとても重要です。そのためには自分の「こころ」と「からだ」の現状を知ることが第一歩となります。女性の場合、月経という生理的現象が毎月おこり、これが「こころ」と「からだ」にかなり影響を与えていることもあります。ですから、このワークは女性にとっては大切なものだと考えています。

P23 大人バージョンへのガイド①お酒とたばこ（説明）

おとなになると（この場合は20歳）法律的には、お酒とたばこをたしなんでもよいとされます。ASDの特徴がある皆さんの中には、「20歳になるとお酒とたばこを飲んだり吸ったりしなければいけない」と勘違いしてしまう人もいます。このお酒とたばこは嗜好品であり、たしなむのは個人の自由ですので義務ではありません。ですからそこを理解してもらえるといいと思います。また、お酒とたばこを楽しむにはルールがあります。それを理解して、楽しんでほしいと思います。ただし、お酒とたばこは体にとってはよいものであるとは言い難いので、十分注意が必要です。

P24 大人バージョンへのガイド②お金の使い方（日常生活編）（説明）

日常生活を送るうえで必要なお金について考えてもらいます。普段は両親がお

金を稼いで、そのお金でご家族がやりくりをして、食費や学費などをねん出してくれます。しかしそれは両親がこっそりとやりくりしているので、あたかもそんな苦勞なくしているように見えます。しかし実際にはそうではないので、そこと理解してほしいと思います。このことは将来一人暮らしをするためには必須の知識と能力になりますから、ぜひ身につけてほしいと思います。

P25-26 大人バージョンへのガイド③お金の使い方（借金編）（説明）

カードや電子マネーは、実際の紙幣や硬貨が目に見えないので手持ちのお金の増減が分かりにくいものです。ですからついつい使いすぎることもあります。計画的に上手に使うために、使い方を学んでほしいと思います。

またここでは、マルチ商法、悪徳商法についても知ってほしいと思います。ASDの特徴がある方は、相手のことを疑うことなく信じてしまうというという良い面が裏目に出てしまうということもです。ですから、こういった商法にひかからないように知識として知ってほしいと思います。

P27-28 大人バージョンへのガイド④お金の使い方（インターネット編）（説明）

またインターネットなどの実際に物品を見ないで買い物し支払い手続きをする、ほしいものが手軽に手に入るという便利さも実感できます。そうすると家に居ながらにして簡単に買い物できると上限なく使ってしまう恐れがあります。インターネットは相手が見えないので、詐欺など悪意のあるサイトもあります。ですから使用するには十分気をつける必要があります。

P29-30 大人バージョンへのガイド⑤通信機器での人とのやり取りを円滑にするコツ（説明）

近年はパソコン・スマートフォンなど通信機器が手軽に使用できます。これらは最近のコミュニケーションツールで、新しいコミュニケーションの方法だともいえます。従来の面と向かってのコミュニケーションとは違って、相手の顔が見えずに相手のことを理解しなければいけません。それは ASD の特徴にある美馬さんにとってはかなり難しい事でもあります。時にはトラブルに陥ってしまうこともあります。ですから、使い方を理解して楽しく便利に利用してほしいと思います。

<ワークブックの使い方・注意>

読み物として

個人的に使用する場合は、読み物として活用していただき自分の知識の一部として補充していただければと思います。当事者の方でもいいですし、支援され

るご家族や支援者の皆さんにも利用していただけるとおもいます。

ワークショップの資料として

当事者の皆さんが数名集まることができれば、グループワークを行うことができます。皆さんが興味があるテーマを選び、参加者で意見を交流しながら進めます。この際にはファシリテーターと呼ばれるグループの意見交流を促進する役割を行う支援者がついていることが望ましいです。

ワークブックの今後の活用方法

必要な時に使ってください。

上にも書きましたが、内容を読んで知識とするときもあるが、すべてできなくてもよいですし、やろうと脅迫的にならなくてもよいです。この中の事がすべて自分に合っているとも限りません。ですから必要なものを選んで使い、分からない時には周囲の人に確認しながら利用してください。

(3) ワークショップの実施

11月	10日 愛知県名古屋市 栄中央店第9会議室
12月	21日 徳島県徳島市 アスティ徳島第2会議室 連携団体：オーティの会
1月	11日 東京都調布市 調布市文化会館たづくり 映像シアター室 連携団体：アスペの会東京
2月	2日 大阪府大阪市 ドーンセンター 大会議室 連携団体：ネクストステージ大阪 LLP

(4) 今回のワークショップの流れ

第I部

対象：当事者、ご家族、支援者

- ・アンケート記入
- ・グループワーク（以下）
- ・レジュメの説明
- ・ワークブックの使い方

第II部

対象：ご家族（希望があれば）、支援者

- ・今日のふりかえり
- ・支援するうえで難しさの交流

(5) グループワークの進め方

a) ワークショップの説明

ワークショップとは、work（作業）＋shop（店）というので、今回の（作業）とは「参加者がお互いに意見を言ったり聞いたりすること」で、（店）とは「その意見を聞くことで知識を得る」というような意味だということを伝える。「これから少人数のグループで意見を言い合うという（グループワーク）こ

とをします（講義を聴くだけではありません）」と伝える。それでもいいかどうか参加者に確認をする。中には講義を聴くだけのつもりで参加されている方もいるため、話ことが苦手・話をしたくない方もいるので、確認して了解を得ておく。

b) グループの作成

あらかじめ参加者の中で、当事者、ご家族、支援者がそれぞれ1人は入るように4~6名程度のグループに分けた。それぞれのグループにそれぞれの属性の方が入るようにする。また中には当事者で家族、当事者で支援者、家族で支援者、など、二つの役割を担っている人もいるので、今回はどれか一つに決めてもらうようにした。

会場の広さと参加者のバランスを考えてあまり多くなりすぎないように、グループを作成する。事前に分けておいてもよいが、当日突然欠席される方や、また当日参加の方などもいるため、当日会場でグループ分けを行った。

c) グループワーク

①自己紹介

グループが決まったら、それぞれで自己紹介をする。その時に話す内容は、全体で決めておいたほうがよい。たとえば、名前、出身（住んでいる地区）、仕事（所属）など。なかにはご自分の経歴や、子どもの困っていることなど話される方がいるが、なかなか話が切れなくて延々と話し続けてしまう場合があるので、はじめに決めて伝えたほうがよいと感じる。

自己紹介はアイスブレイクの代わりにもなるので、あまり固くならないように気楽に話せるように、趣味や好きな食べ物など、誰にでも話せる質問を準備するのもよい。

②役割決め

本題に入る前にグループワークでの役割を決めてもらう。

○進行役：グループワークの司会、仕切る役ではなく話していない人に話してもらうように指名したり、意見が出止まったときに話題を切り出してみるなど

○記録役：グループワークで出た意見を用紙（パソコン）に記録する

○発表役：全体でシェアする際に、グループワークで出た内容を、記録をもとに発表してもらう

③約束の確認

グループワークでの約束を確認する。

- ・自分のことばかり話さない
- ・他の人の話を聞く
- ・他に人の話したことを評価しない（そればよくない、そんなことをしていけない、など）

④本題のディスカッション

今回のテーマは「誤解されたこと」「誤解したこと」ということで、今まで当事者の方が関わったそれぞれの経験を話し合う。お互いの話を聞き、自分の経験を（話してもよい範囲で）話す。ここでは十分に時間を取り、交流を深めてもらう。

⑤グループで出た内容を全体でシェアする

発表役に人に、グループで出た話題を発表してもらう、質問や追加などを受け付ける。

「誤解されたこと・誤解したこと」で出た話題の一例

- ・無礼講
- ・メールでのやりとり（メールでの距離と実際の距離）
- ・好意を持っているときの、好意の程度

(6) ワークショップ実施後のアンケート結果

a) 名古屋会場

開催日：平成 25 年 11 月 10 日

会 場：栄中央店第 9 会議室（愛知県名古屋市）

参加者：26 名（当事者 21 名、家族 2 名、支援者 3 名）

回収率 100%

設問 1：本日のワークショップの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	10 名
満足	14 名
やや不満足	2 名
不満足	0 名

設問 2：「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点がよかったですか。

役立つ情報が得られた	13 名
日頃の生活や活動に役立った	8 名
スキルアップにつながった	5 名
他の参加者との交流・情報交換が図れた	8 名
抱えていた問題・不安の解消につながった	4 名
その他	4 名

○その他について（自由記述）

- ・人との関係の距離感の図をチェックしたことで、今の自分の人間関係について感じるものがありました。
- ・自分の意見を述べて、他人の意見を聞いたこと
- ・今、担当している子が中学 1 年生で、これから思春期に入っていく中で、必ず異性との関係の話が出てくると思うので、社会人の方々が抱えている悩みを知ることが出来てとても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・いろいろな人の意見を聞き、また、普段子供との相手が多い中で、成人の人とプログラムをすることによって、いつもと違った体験が出来てよかった。
- ・人との距離感をつかむ方法をもう少し詳しく学べたらよかったなと思っています
- ・日常生活でどんなことに困り、どう考えていくのかを少し感じる事が出来ました。

設問3：1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。

役立つ情報が得られなかった	2名
日頃の生活や活動に役立たなかった	1名
スキルアップにつながらなかった	0名
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	1名
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	0名
その他	1名

○その他について (自由記述)

- ・具体的に良く書けましたが、話を聞けなかったせいかわからなかった
- ・頂いた資料は参考にしたい



b) 徳島会場

開催日：平成 25 年 12 月 21 日

会 場：

連携団体：オーティの会

参加者：35 名（当事者 10、家族 8 名、支援者 16 名、その他 1 名）

アンケート回収率 68.6%

設問 1：本日のワークショップの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	5 名
満足	16 名
やや不満足	1 名
不満足	1 名

設問 2：「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点がよかったですか。

役立つ情報が得られた	10 名
日頃の生活や活動に役立った	5 名
スキルアップにつながった	6 名
他の参加者との交流・情報交換が図れた	15 名
抱えていた問題・不安の解消につながった	5 名
その他	1 名

○その他について（自由記述）

- ・大人の当事者の方の話が参考になりました
- ・当事者の方や家族の方、他の支援者が抱えている困っていることの生の話が聞けた。
- ・誤解が生じることへの不安が少し和らぎました
- ・支援者側の考え方などが分かったため良かったです。また当事者とのズレも学びました。

設問3：1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。

役立つ情報が得られなかった	2名
日頃の生活や活動に役立たなかった	0名
スキルアップにつながらなかった	1名
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	0名
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	0名
その他	0名

○その他について(自由記述)

- ・当事者が各グループ1名というのは負担じゃないかと思いました。



c) 東京会場

開催日：平成 26 年 1 月 11 日

会 場：

参加者：21 名（当事者 3 名、家族 11 名、支援者 5 名）

アンケート回収率 100%

設問 1：本日のワークショップの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	5 名
満足	12 名
やや不満足	1 名
不満足	0 名

設問 2：「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点がよかったですか。

役立つ情報が得られた	10 名
日頃の生活や活動に役立った	6 名
スキルアップにつながった	3 名
他の参加者との交流・情報交換が図れた	14 名
抱えていた問題・不安の解消につながった	1 名
その他	0 名

○その他について（自由記述）

- ・大人になって診断を受けた母の心と旦那さんの心で、母方の母（祖母）の受け取り方を聞いたので。
- ・グループに、本人、支援者、保護で話し合いの場があり、それぞれの考え、共感などで良かったです。
- ・親がある程度管理するのがいいと思うのが同感でした。日常のトレーニングが必要。
- ・当事者の方や保護者の方の様々な対処法を聞くことができた。とても勉強になりました。

設問 3：1 で「やや不満足」「不満足」を選んだ方）どのような点が良くなかったですか。

役立つ情報が得られなかった	0 名
日頃の生活や活動に役立たなかった	0 名
スキルアップにつながらなかった	0 名

他の参加者との交流・情報交換ができなかった	0名
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	1名
その他	0名

○その他について（自由記述）

- ・具体的な論点を設けての話し合い、抽象的なことについての話になった。しかし、小冊子は役立ちそうです。

d) 大阪会場

開催日：平成 26 年 2 月 2 日

会 場：

参加者：21 名（当事者 3 名、家族 11 名、支援者 5 名）

アンケート回収率 100%

設問 1：本日のワークショップの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	3名
満足	13名
やや不満足	4名
不満足	0名

設問 2：「とても満足」「満足」を選んだ方）どのような点がよかったですか。

役立つ情報が得られた	6名
日頃の生活や活動に役立った	5名
スキルアップにつながった	2名
他の参加者との交流・情報交換が図れた	9名
抱えていた問題・不安の解消につながった	1名
その他	3名

○その他について（自由記述）

- ・子と親の立場で、意見が違ってもそれぞれがよいと思ってしたことだと思えることがわかった
- ・誰もが誤解されたり、誤解していることがわかって、自分だけじゃないとわかった。皆

が苦勞しているとわかった。

- ・当事者の方、支援者の方、家族の方と話ができて、共感できた部分は良かった
- ・具体的な話を聞くことができた。今まで、あまり接することがなかったので、ご家族の方、当事者の方と接することができたことは有意義でした。
- ・障害にあっている人の多さに、気持ちを共有でき、良かったです。頑張ろうという気になりました。
- ・周囲には普通の方が多く状況で過ごしていたので、孤独感を覚えていました。他に同じように考えている人の存在がわかって嬉しかったです。

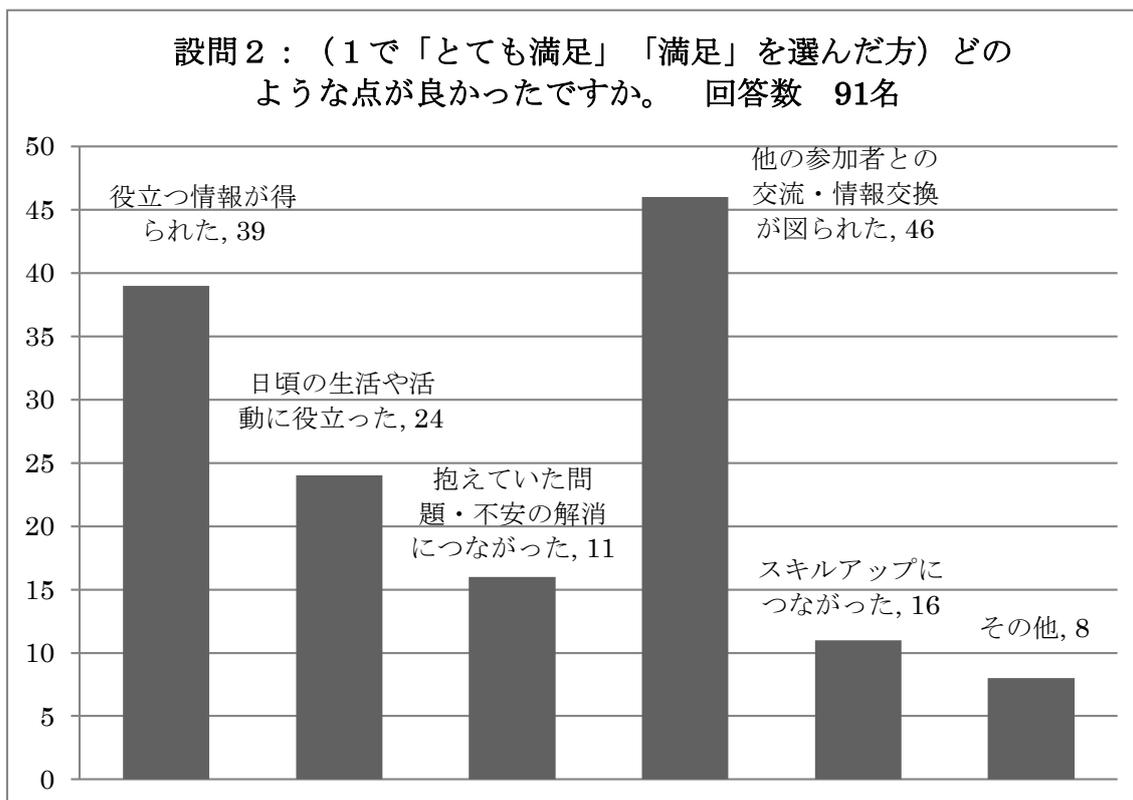
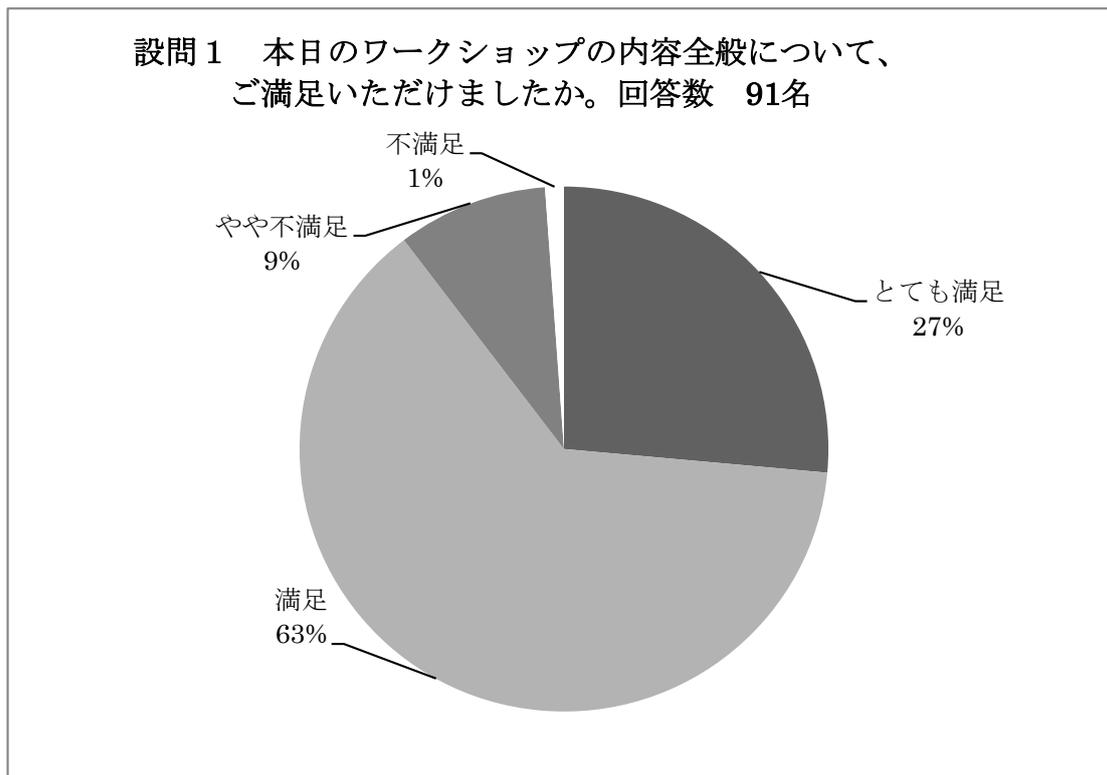
設問3：1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。

役立つ情報が得られなかった	2名
日頃の生活や活動に役立たなかった	0名
スキルアップにつながらなかった	3名
他の参加者との交流・情報交換ができなかった	0名
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	2名
その他	1名

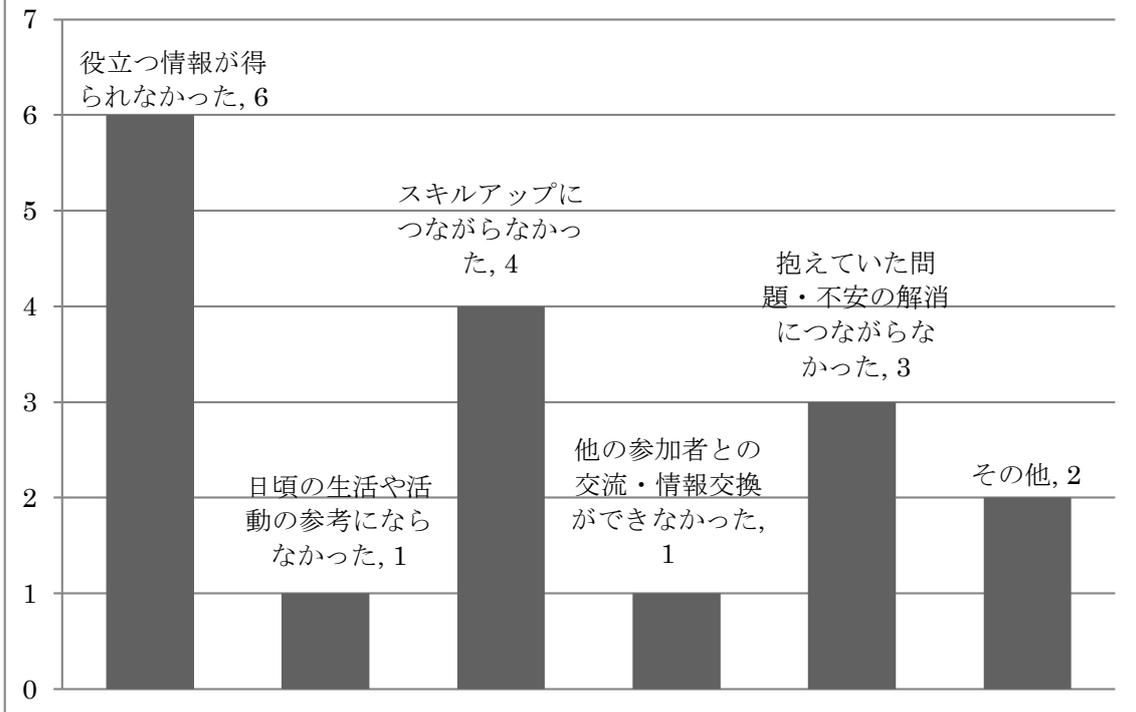
○その他について (自由記述)

- ・ワークショップ形式でうまくまとめられなかった。個別に話を聞きたい気も。
- ・テキストに書いてあることを参加者全員で学べなかったのが少し残念でした。
- ・あまり突っ込んだ話ができなかった。当事者をまじえてのワークショップは、当事者の気持ちを聞く場としては良いが、遠慮が出てしまい、話をしにくかった。

○アンケート4会場をまとめたもの



設問3：（1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方）どのような点が良くなかったですか。 回答数91名



3. 対象者の反応、変化

本事業で作成したワークブックの内容については、対象を思春期以降にしたということで、本人だけでなく家族にとっても、大人としての他者との距離感、異性に対する距離感について図で捉えることができるという部分は参考になったようである。

特に自分では「よいこと」と思い行った行動が、必ず相手にとっても「よいこと」にはならないということや対人関係では直接的な関係ではなく、金銭やインターネットの使用時に起こり得るトラブルについても触れており、学ぶことはたくさんあるということに参加者と共有できるものであった。

関係者などにもワークブックを配布しているが、「自分たちの団体の会員にもほしい」という要望もあり、今後活用できるテキストになると思われる。

ワークショップについては、開催地によって、当事者、家族、支援者のバランスが異なったため、グループワークの進め方もそれぞれに合わせて行うことになった。

実際に実施してみると、他者との距離感の理解の有無によって、他の内容についての取り組みに進めるかが左右されてくる。この距離感の理解は、「誰とも同じような距離感でかわるのではなく距離感相手によって異なる」ということについてである。ここではどう違うのか、どれくらいの許容があると良好な関係を築いていくことができるかについて学んでいくため、やはり距離感については大事な部分であるということが確認できた。

当事者からは、自分たちが気づいていなかったことについて知ることができたことで、いろいろと誤解をしていることもあることがあったことを参加者どうしで共有できたり、家族の思いと当事者の考えのズレが確認できたりしたことがよかったようである。

支援者にとっても、当事者たちが困っている部分がどのように理解しているからなのかという部分も直接聞くことができたようで、支援の仕方についても考えるところがあったようである。

また当事者向けのグループワークについては、参加者どうしで得意なことや趣味、苦手なことや困っていることなど共有し、自分だけが大変な思いをしているわけではないということが確認できるだけでも当事者にとっては気が楽になるようである。

その中でお互いに必要なことを確認することで、グループワークへの意欲やプログラムの内容に対する意識も高まってくるようである。

本人の動機づけを高める意味では、「素敵な大人になる」という魅力的なフレーズは大いに役に立つと思う。個々のメンバーが最も食いつきの良いフレーズというのは多少の違いはあるかもしれないが、基本「すてきな大人」のアレンジとして通用しそうである。

逆に本人たちに伝えていくときは、具体的な行動でとらえ直して、一つひとつ丁寧に伝えていくという点は非常に大事である。

アスペ・エルデの会の社会人グループに対して、数年前からライフプランニングのプログラムに携わっているが、今回の「素敵な大人計画」もその延長線上にあるプログラム（基

本的な考え方は、ライフプランニングと同じであるし、アプローチの切り口も共通) であると思う。男性に対しては女性が振る舞いに対する実施することで、本人たちのモデルとなり得るためにわかりやすい。講師だけでなく、参加者どうしでその様なモデルを示すことができることが望ましい。

基本的なプログラムは確立していると思うが、実際に実施してみると、年齢や置かれた立場によって「素敵な大人」としての振る舞い方にも違いが出てくる可能性があるため、個々にカスタマイズしていくことが必要だと感じた。

4. 全体の成果と課題

1) 成果

本事業では、思春期以降の社会における適切な行動について考えるためのテキストとして「素敵な大人計画」というワークブックを作ることができた。

体とところの変化によって、社会から求められる行動というものも合わせていくことが必要であるが、そこは自然に変化していくというよりは自分自身で調整し変化させていく部分も大きくなっていくと思う。

参加された家族や支援者からは、実際に本人たちに教えなければならないことであるが、どう伝えていけばよいかわからなかったのが、こうしてテキストがあると活用できるという感想もあり、このような課題に対する支援ツールのニーズはあったのだということも確認できた。

ワークショップに参加された方のうち、内容に満足した人は全体の 9 割であったため、有意義なプログラムであったと考えられる。

参加しての効果としては、「他の参加者との交流・情報交換が図られた」と回答している人が 46 名、「役立つ情報が得られた」と回答している人が 39 名とこの 2 つの項目についての評価が高かった。このことから、参加の目的としては必要な情報を求めるだけでなく、グループの中で交流したいという人もいるということがうかがえる。その中で今回のプログラムについても、生活の中で必要なことだという評価もあったのではないかなと思う。

感想にもあるように、自分の考えと他者との考えは一致しないこともあるということが確認できたことも成果であると思う。こうした周囲との不一致が、誤解を招いてしまうことになるため、この後に一致しない場合にどのようなことに気を付けて行動することがよいかということが必要になる。一人だけが「誤解をしていた」ということではなく、他の人も誤解している、誤解されているということがわかることで、自分の行動を振り返り修正が必要だということに気づくことができるようである。

「抱えていた問題・不安の解消につながった」という項目も 11 名の回答があった。当事者にとっては生活の中ですでに困っていることがあり、その対応としての有効な内容がこのプログラムに含まれていると考えられる。

2) 課題と今後の取り組み

ワークブックについては、必要だと思う内容を 30 頁にわたって盛り込むことができたが、今回のワークショップでは全体を網羅したワークには至らなかった。実際にこのワークを進めるには、回数の設定が必要になる。

また、参加者がワークショップという手法になじめていないということもある。このような方法は最近では多くなってきたが、講義や講演を聞くという形式の講習会のほうが一般的である。そのためこのような形式を想像して参加さ

れると、自分が話さなければいけないということに驚かれる方も少なからずみえる。グループワークでの話し合い方について、進行についての技量も必要になってくる。話ができる人は、一人で話しすぎてしまうため、他の人たちの意見など聞く機会がなくなってしまう。ワークショップとは他人の話聞くことも大切であるが、どうしても長く話されてしまう方もみえるため、具体的にどのような話をその場ではするのかを明確に伝えながら進行しないといけないこともある。また進行役を決めておいて、その人が時間を見ながら進めていくとよい。

また、個々の持っているケースについての答えを求められる場合もあるが、ここでは他の人と交流することで、「気づく」ということを促進するようにしている。個々のケースに回答しながら進めると、質疑応答のような形になり、参加者にとっても体験的なワークができなくなり、本来のグループワークで設定しているゴールにまでたどり着けないことも出てくる。

グループワークのプログラムの内容だけでなく、進行の仕方もワークには大きく影響してくる。

今後は、本事業で作成したワークブックを思春期以降の発達障害者の支援ツールとして活用してもらえるように、啓発を兼ねたワークショップを進めたり、支援者が活用できるような研修なども検討していく必要がある。こうしたワークショップに当事者が参加できるようになってきているので、有意義なものになるようにしていくためにも、毎回のプログラムの進め方や参加者のニーズに合わせた進め方、などの調整をしつつ、支援者がより活用しやすいようなマニュアルについても考えていきたい。

資料（各地域の案内チラシ）

「独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興事業」

※名古屋会場

誤解しない・されないためのワークショップ

日 時：2013年11月10日(日) 14:00~17:00

会 場：栄中央店第6会議室（名古屋市中区栄三丁目15-27 いちご栄ビル）

講 師：NPO法人アスペエルデの会／岐阜大学 川上ちひろ

対象者：思春期以降の発達障害のある方

ご家族

支援者（医師、医療系職種、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、
精神保健福祉士、社会福祉士、教員など）

目 的：スムーズに社会生活を送るために、発達障害のある方にとって知っておいたほうがよいことが多くあります。自分の思い込みでしている行動はもしかしたら「誤解」しているかもしれませんし、周りから「誤解」を受けているかもしれません。しかしそれらの多くは、他の人たちと交流しないとわからないことです。

今回このワークショップでは、いくつかのスキルについて、サポートブックを用い、参加者と交流しながら学びます。

流 れ：

14:00~15:50（当事者のみなさん向け）

サポートブック（作成中）の内容を提示し、参加者同士で交流しながら進めます。

※ご家族・支援者のかたは見学、もしくは適宜当事者の皆さんをサポートしていただくかもしれません。

16:00~17:00（14:00から参加された家族・支援者のみ）

前半の内容についてふりかえります。

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興事業

誤解しない・されないためのワークショップ（徳島）

主催：特定非営利活動法人アスペ・エルデの会

共催：オーティの会

- ✓日時：2013年12月21日（土）13：30～16：30（日程は下記をご覧ください。）
- ✓会場：アスティ徳島 第2会議室（徳島市山城町東浜傍示1番地1）
- ✓講師：川上ちひろ（岐阜大学医学部）
- ✓対象者：①思春期以降の発達障害のある方
②ご家族
③支援者（医師、医療系職種、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士、教員など）
- ✓参加費：無料
- ✓定員：50名

概要：スムーズに社会生活を送るために、発達障害のある方にとって知っておいたほうがよいことが多くあります。自分の思い込みでしている行動をうけているかもしれません。しかしそれらの多くは、他の人たちと交流しないとわからないことです。今回のワークショップでは、いくつかのスキルについて、サポートブックを用い、参加者と交流しながら学びます。

日程

- 第1部 13：30～15：20（当事者の方を中心に）
参加対象①②③（上記対象者参照）
サポートブック（作成中）の内容を提示し、参加者どうしで交流しながら進めます。
※ご家族・支援者の方は見学、もしくは適宜当事者のみなさんをサポートしていただくかもしれません。
- 第2部 15：30～16：30（13：30から参加された家族・支援者のみ）
参加対象②③（上記対象者参照）
第1部の内容を含め、全体のプログラムについて振り返りを行います。

○お申し込み方法

※アスペ・エルデの会のHPの「まなぶ」にあるセミナーページよりお申込みください。
URL：<http://www.as-japan.jp/seminar/172>

※お申込みは1名ずつお願いします。

FAXの場合は、氏名、お立場；上記①～③、連絡先（ご住所、電話番号、メールアドレス）をご記入いただき、052-505-5000までおかけ間違いのないように送付してください。

事務局 452-0821 名古屋市西区上小田井 2-187-201

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会事務局（担当：田中）

電話&FAX：052-505-5000 mail：ibasho@as-japan.jp

誤解しない・されないためのワークショップ（東京）

主催：特定非営利活動法人アスペ・エルデの会

共催：アスペの会・東京

- ✓日時：2014年1月11日（土）13：30～16：30
- ✓会場：調布市文化会館たづくり 映像シアター（調布市小島町 2-33-1）
- ✓講師：川上ちひろ（岐阜大学医学部）
- ✓対象者：①思春期以降の発達障害のある方
②ご家族
③支援者（医師、医療系職種、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士、教員など）
- ✓参加費：無料
- ✓定員：50名

概要：スムーズに社会生活を送るために、発達障害のある方にとって知っておいたほうがよいことが多くあります。自分の思い込みでしている行動をうけているかもしれません。しかしそれらの多くは、他の人たちと交流しないとわからないことです。今回のワークショップでは、いくつかのスキルについて、サポートブックを用い、参加者と交流しながら学びます。

日程

- 第1部 13：30～15：20（当事者の方を中心に）
参加対象①②③（上記対象者参照）
サポートブック（作成中）の内容を提示し、参加者どうしで交流しながら進めます。
※ご家族・支援者の方は見学、もしくは適宜当事者のみなさんをサポートしていただくかもしれません。
- 第2部 15：30～16：30（13：30から参加された家族・支援者のみ）
参加対象②③（上記対象者参照）
第1部の内容を含め、全体のプログラムについて振り返りを行います。

○お申し込み方法

※アスペ・エルデの会のHPの「まなぶ」にあるセミナーページよりお申込みください。

URL：<http://www.as-japan.jp/seminar/173>

※お申込みは1名ずつお願いします。

FAXの場合は、氏名、お立場；上記①～③、連絡先（ご住所、電話番号、メールアドレス）をご記入いただき、052-505-5000までおかけ間違いのないように送付してください。

.....

事務局 452-0821 名古屋市西区上小田井 2-187-201

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会事務局（担当：田中）

電話&FAX：052-505-5000 mail：ibasho@as-japan.jp

誤解しない・されないためのワークショップ（大阪）

主催：特定非営利活動法人アスペ・エルデの会

共催：ネクストステージLLP大阪

- ✓日時：2014年2月2日（日）13：30～16：30
- ✓会場：ドーンセンター 大会議室（大阪市中央区大手前1丁目3番49号）
- ✓講師：川上ちひろ（岐阜大学医学部）
- ✓対象者：①思春期以降の発達障害のある方
 - ②ご家族
 - ③支援者（医師、医療系職種、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士、教員など）
- ✓参加費：無料
- ✓定員：50名

概要：スムーズに社会生活を送るために、発達障害のある方にとって知っておいたほうがよいことが多くあります。自分の思い込みでしている行動をうけているかもしれません。しかしそれらの多くは、他の人たちと交流しないとわからないことです。今回のワークショップでは、いくつかのスキルについて、サポートブックを用い、参加者と交流しながら学びます。

日程

- 第1部 13：30～15：20（当事者の方を中心に）
参加対象①②③（上記対象者参照）
サポートブックの内容を提示し、参加者どうしで交流しながら進めます。
※ご家族・支援者の方は見学、もしくは適宜当事者のみなさんをサポートしていただくかもしれません。
- 第2部 15：30～16：30（13：30から参加された家族・支援者のみ）
参加対象②③（上記対象者参照）
第1部の内容を含め、全体のプログラムについて振り返りを行います。

○お申し込み方法

※アスペ・エルデの会のHPの「まなぶ」にあるセミナーページよりお申込みください。

URL：<http://www.as-japan.jp/seminar/174>

※お申込みは1名ずつお願いします。

FAXの場合は、氏名、お立場；上記①～③、連絡先（ご住所、電話番号、メールアドレス）をご記入いただき、052-505-5000までおかけ間違いのないように送付してください。

事務局 452-0821 名古屋市西区上小田井 2-187-201

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

※事務局（担当：田中）

isho@as-japan.jp

「誤解しないされない対人関係支援事業」ワークショップに関するアンケート

執筆者 川上ちひろ（岐阜大学医学部）
熊谷 豊 （日進市子ども発達支援センター長）
田中尚樹 （特定非営利活動法人アスペ・エルデの会事務局長）

発行 特定非営利活動法人アスペ・エルデの会
452-0821 名古屋市西区上小田井 2-187
メゾンドボヌー小田井 201 号室
電話・FAX 052-505-5000
メール：info@as-japan.jp